
夜の月の夢屋

夜月 零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜の月の夢屋

【Nコード】

N9253V

【作者名】

夜月 零

【あらすじ】

これは夢物語、夢屋の案内人たちが、あなたに夢のお話をしてくれるでしょう私の！！

屋上と友と・・・

お久しぶりです！！夜月です

色々あって、やっていませんでした・・・

小説は、ノートに色々たまっているのですが・・・

ここに書いてません・・・ほんと色々すみません・・・

・・・つということで、これから私が見た、夢話をします。

本当にみた夢です、そして見なかったりするときがあるときがあるので、その場合は

書かないと思われます・・・

でわでわWさっそくスタート！！

ここは、どこかの廃ビルの屋上、私はフェンスの外にいた、

池袋のような街並みだったが、時間は夜で、遠くにあるビルなどがきれいにみえた。

ここの屋上は誰もいなく、廃ビルの周りにも人がいる気配もなかった・・・

そんなところに私は居た、このビルは少し高い、落ちたら死んでしまいそうだった。

私は考え事をしていた。

《私はいらない存在なのか・・・》

夢以外に現実でそのようなことも考えたこともある。

夢の中の私は、ため息をつきながら座っていた。

なぜか夢の中の自分は、いつも現実と違う姿なのだ。

男になったり、女になったり、あるいは、それ以外だったり・・・

でも、一つ共通点があるとすれば、そこが二次元なのだ

夢は、記憶の整理する時見られるのだと、どこかで聞いたことがある

私は、アニメやゲームが大好きで、そのせいだと思う。

・・・少し話がそれたが、話に戻ろう。

そういえば一つ言い忘れたが、私は今、女の姿だ、想像していただきたい、

黒いパーカーに、赤いチェックのミニスカート、黒いニーハイ、底厚のローファーをはいている

少し長いパーカなので、フードをかぶって座っているとまっくろになる

・・・また話がそれてしまった・・・今度こそ話に戻ろう、

私は、暗い夜の闇にまぎれながらずっとそのことを考えていた。考えていたらふとこんなことを言ってしまった。

「ここから飛び降りたらどうなるんだろ・・・？」

そうしたら確実に死ぬ、それはわかった。

でも、そうつぶやいていた

すると、後ろから、誰かが話しかけてきた。

「じゃあここから飛び降りてみる？」

きいたことある声だった。

低いような低くないような男の人の声だった。

・・・あ・・・そうだ私の好きな声優さんの声だ、

その声のする方へ私は振り向いた

顔はみれなかったが、私が知っているキャラの格好をしていた。

・・・その後、周りの景色が変わった。

今度も屋上だ。

違うのは、時間が昼なのと私の学校だということ、

そして、私の入ってる部活のメンバーがいるということ。

「やめてー！！！！」

「え？」

突然叫ばれて、私は呆然としていた。

周りを見てみると、私は、フェンスの外にいて、

いかにもいつ飛び降りてもおかしくない状況だった。

それより驚いたのは、叫んでいる人だった。

てっきり、自分の親友かと思っていたが、あまり私と関わっていない人物だった。

私は、夢の中でも死にたくないと思ったので、こう叫んだ

「私も死にたくない!!」

そういったとたん、私の親友がこういった

「はやくそこから飛び降りて!!」

「!!」

・・・なんで?・・・

いくらなんでもひどかった・・・

それでも夢は夢、そう考えだ自分がいた。

すると、さっき叫んだ子がこういった

「飛び降りちゃだめー!!」

その子は、必死に止めてくれた、まわりの友達から反対されても必死に、

すると、いきなり強い風が吹いた

私は足を滑らせて落ちてしまった。

「いやあああああああああ!!!!」

・・・私の夢はここまで、です。

でも、起きてから不思議なことが起きたのです。

翌日、私は部活に行き、助けてくれた友達にその夢のことを話したんです

そして、その夢を見た一日その子とよく話すようになりました。

終わり

おやおや、帰らないのですか？

物好きもいたものですね・・・

え・・・？

わたしが誰かって？

ああ、自己紹介が遅れました、

わたしは、夢屋の支配人、ジョーカーと言います。

夢屋には、たくさん案内人がいるんで、仲良くしてくださいね、

ああ、そういえば・・・ここには私以外にもう一人支配人がいるんです・・・

その人は、ソンニョっていうんで、仲良くしてください。

おかしい名前？イタリア語で夢というんですよ。

あともう一つ、文章で気になった部分があれば、メッセージでどんな送って頂いて構いません

え・・・？

何がって？

はあ、例えば、

「低いような低くないような男の人の声だった。

・・・あ・・・そうだ私の好きな声優さんの声だ、

その声のする方へ私は振り向いた

顔はみれなかったが、私が知っているキャラの格好をしていた。」

という文がありますね、「その声優は誰なの？何のキャラなの？」
という感じで、送ってくださればお答えします。

ああ、もうこんな時間ですね、あなたも眠いではありませんか？
え・・・？

眠くない、・・・じゃあ、わたしと・・・いえ、何でもあります、
あなたが今夜、ゆっくり寝て、いい夢が見られればいいですね、

また、夢で逢いましょう A r r i v e d e r d i さようなら

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9253v/>

夜の月の夢屋

2011年11月13日08時17分発行